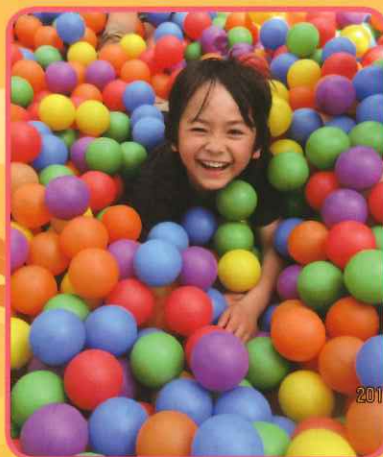
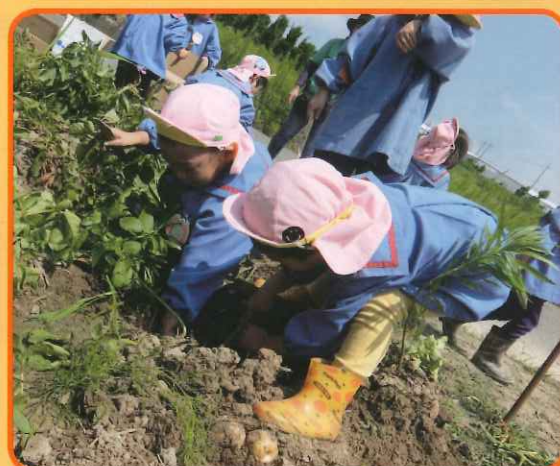


みんなの笑顔み～つけた!!



編集委員

平田豊生苑 祖父江・南海
平田保育園 小島・上野
デイサービス 高島
和進館保育園 川合・高村
和進館児童ホーム 沼崎・中西
守山豊生苑 宇佐美

広報

和進

2019年9月 発行

Vol.65



「平田豊生苑近所の公園にて」

- 平田保育園
- 特別養護老人ホーム平田豊生苑（指定介護老人福祉施設）
- 特別養護老人ホーム守山豊生苑（地域密着型介護福祉施設入所者生活介護）
- デイサービスセンター平田豊生苑（通所介護）
- 平田豊生苑居宅介護支援事業所（居宅介護支援）
- 平田豊生苑ふれあい弁当
- 和進館保育園
- 和進館児童ホーム（児童養護施設）

TEL 052-501-8820 FAX 052-501-6435
TEL 052-505-7201 FAX 052-505-7204
TEL 052-793-7770 FAX 052-793-7739
TEL 052-505-7206 FAX 052-505-7206
TEL 052-505-7263 FAX 052-505-7204
TEL 052-505-7203 FAX 052-505-7204
TEL 052-791-2808 FAX 052-792-5192
TEL 052-793-0122 FAX 052-792-5183

社会福祉法人 和進奉仕会

〒463-0062
名古屋市守山区長栄20番10号
<http://washin.or.jp/>

和進 Vol.65 2019.9.10
編集・発行人 吉田寛一郎

発行所 和進館ふれあいセンター
〒452-0832 名古屋市西区平出町 87
TEL 052-505-7201 FAX 052-505-7204

気分一つで 大違い もう半分と まだ半分

職場への通勤におよそ5キロの道のりを、一時間かけて歩くことがあります。春は五条川の桜吹雪で春を感じ、夏は汗をかきながら。自転車や車、電車では発見できないことものんびり歩けば見つかることも多く、道中、寺院の前に上記の題目が貼ってあるのに気が付きました。そうだな、考え方ひとつで全然気持ちも違ってくる。私はもう50歳を過ぎています。100歳まで生きるとしたら、「まだ50歳」と「もう50歳」では気持ちも違います。今も若い職員と同等な体力を維持しなければとマラソンなどにも挑戦しています。ゴールに向けて走る時も「もう半分」と自分に言い聞かせながら走っています。

ちょうど1年半前NHKのテレビを見ていた時、三河にある会社の社員教育の一環で始まった「三河湾チャリティー100km歩け歩け大会」を紹介していました。20年以上の歴史ある大会で参加した3組を追ったドキュメンタリーでした。80歳のおじいさん、母と高校生の娘、家族と別れた男性の挑戦です。大会の当日は10月末なのに台風が上陸してコンディションは最悪な中、この3組は何とか完歩しました。この大会の趣旨は、「100kmを歩く中でいかに多くの感動・感激・感謝を味わうことができるか」です。完歩することがすべてではなく、タイムや順位を競ったりする大会ではありません。大会を通じて何を感じ取ったかを第一にしています。この番組を見て自分も挑戦したいと考え、物をそろえ、身体も鍛え昨年初参加しました。一人で100キロ自分は20時間かけて、食事やトイレはコンビニに寄りながらチェックポイントで休憩しながらもくもくと。碧南からスタートし豊橋で折り返し蒲郡でゴールです。地図上で直線を引けば名古屋駅から浜松駅までの距離を道中、いろいろな方の応援や参加者との会話、サンダルで歩く人や高齢な方、私以上に完璧に安全対策をしていたりと、学ぶこともたくさんありました。またコンビニ休憩中、ちょっとやんちゃな20代のバイク乗りの二人組に何しているのか声をかけられて説明すると、ジュースを差し入れしてくれました。いろんな出会いや経験もしてゴールはできましたが足はふらふら、温泉に入って汗を流した時、全身を確認すると足裏は大きな水泡ができていました。身体が悲鳴をあげていた証拠です。

参加者の3分の1がゴールできずリタイヤする大会です。逆に考えれば3分の2が完歩できる大会です。こんな大変な大会ではありましたが、またチャレンジしたいと思ってしまう自分がいます。皆さん人生まだまだ長いのです。やってみたいこと、やり残したことはありませんか？何か目標を持つことはとても大切です。こんな地獄のような体験も一度くらいはどうですか。



デイサービスセンター平田豊生苑 介護職員 大野 豊和



おいしくたべることができる、いくつかのほうほう



人の楽しみのひとつとして、楽しい食事の時間は欠かせないと思います。美味しい食事を頂くことはご利用者の満足度向上にもつながり、ご利用者の笑顔がみれることで私たち職員の働く活力にもなります。

昼食はご利用者と一緒の席に着き、職員も同じ御膳をいただきます。私がおこへ入職して初めて口にしていた汁が美味しく、それは数ヵ月過ぎた今でも変わりません。ご利用者も昼食の時間を楽しみにされている方が多く、朝、来苑されてすぐにボードに書かれている「今日のメニュー」を確認されたり、昼食の時間が待ちきれない様子を多く見かけます。栄養士が栄養面を考慮しながら豊富な献立を考え、調理員が調理する。より美味しい状態で召し上がっていただくために、デイサービスセンター平田豊生苑では、配膳直前に汁物を温め直し、温かいご飯とともにアツアツでご利用者に提供します。副食もできる限り個々の希望を取り入れ、食べやすい形状にして調理されています。また、食札には個々に除去食の記載があり、状態に合わせたスプーン・フォーク・介護用スプーン等が御膳にのせられてきます。

デイサービスのご利用者は、脳梗塞などによる身体機能の低下や高齢に伴う認知力の低下から、日常生活に支障をきたした方々です。その為食事の前に、まずはトイレを済ませ席に着かれてから、数分間の嚥下体操で食事の場を整えます。食事が始まると十分に咀嚼しないまま早食いになったり、箸やスプーンを持たずに手で掴み、お椀をそのまま口に運んでしまったり、隣の御膳に手が伸びる方もあります。必要に応じ職員が付き添い、口に入れ過ぎて詰まらせない様に注意しながら、安全に食事ができる為の援助をしています。

半側空間無視という障害がある方の場合、片側だけが残ってしまう為、皿の位置を変え、まだ残っている事に気付いて頂く事で残さず食べられました。どうしても食べようとされない方にご飯を一口大のお結びにした所、最初は一つだけ、暫く続けるうちに二つへと食べられる様になりました。また、麻痺がある方には、皿が滑らない様にトレイの上に滑り止めマットを敷き、食べやすくなる工夫をしています。同じ皿ばかりに箸が行かない様に位置を変え、口に詰め込まない様にご自身のペースに合わせてながら、一緒に食べる事の喜びを、私達も感じております。

和進館ふれあいセンターは、乳幼児から100歳を超える高齢者までが集われるところです。「食べる力」＝「生きる力」といわれている様に、デイサービスへ日々足を運んで下さるご利用者に対し食を通してより満足して頂ける様に、安全で楽しく美味しい食事の場を提供していきながら、頑張りたいと思います。

デイサービスセンター平田豊生苑 看護師 金尾 智子

ハンドベルの奏でる音色

平田豊生苑には4つのサークルがあります。その中から『ハンドベルサークル』について、少しご紹介させていただきます。

ハンドベルサークルは、住人さんが主体となって10～13名ほどで活動しています。年に2回程ある外部公演に向けて、日々一生懸命練習されています。7月頃にあるイオンタウン名西での演奏会。秋には、平田豊生苑がある地域の老人会【永寿会】の敬老会に参加し演奏させていただいています。その他には、クリスマス忘年会や、合築の平田保育園の卒園の時期に園児に向けて演奏をおこなっています。

入職1年目からハンドベルサークルに関わらせていただき、早いもので3年目になりました。わずか3年間で参加してくださる住人さんの顔ぶれも半分以上変わりました。日常の中で「あの住人さん、ハンドベル出来ないだろうか…」などと、沢山の方に参加していただけるようなサークルを考えています。

毎日当たり前に過ごしている日常の中で、趣味や余暇活動を充実する為にサークルに参加していただくと、いつもと違う晴れやかな表情であったり、初めて知ることのできる姿であったりと、普段の関わりでは知る事のできなかった新たな一面も知ることができました。住人さんにとってサークルに参加することが生活の一部となり、「今日はこんなことをしてきた」「習字でこんな文字を書いてきた」と話してくださるその表情を見るのが、私の楽しみでもあります。

ハンドベルサークルではその季節にあった誰もが知っている曲を演奏します。「この曲懐かしい」「よく聴いていた思い出の曲」など様々な感想と共に演奏しながら、今までを思い出し涙を流される住人さんもいらっしゃいます。私達職員だけが演奏を行うのではなく住人さんが主体となって演奏する音色は、何倍も何十倍も綺麗で素敵な音色になります。今でも初めて聴いた時の、演奏する住人さんの表情と、大勢の演奏する音色が合わさる時の感動は、忘れることが出来ません。

イオンタウン名西での演奏の際、その日たまたまイオンに買い物にいられた方、たまたま通りかかった方、様々な方が足を止め、私達の演奏を聴いてくださいます。「すごくよかったよ!」「正直、こんな演奏が聴けるとは思ってなかった」などと嬉しい声をかけて頂くこともあります。その言葉を耳にするたびに、住人さんの奏でる音色は、いろんな方の心に響いているのだと改めて感じる事が出来ました。

「そんな表情をするんですか!」と驚き喜んでくださるご家族様。「また来年も楽しみにしています」と毎年楽しみにしてくださっているご家族様。サークル活動を通して、知ることの出来なかったお一人おひとりのニーズや、過ごされてきた今までと“変わらない日常”や“その方らしさ”を引き出すために、サークル活動がその“きっかけ”になればと思います。

介護職員 菊本 治美

お楽しみ

私は住人さんとの外出が大好きです。普段住人さんが施設で過ごしている時とは違ったことを経験されたときの表情を拝見することが出来たり、いつもと違った話しが出来たりするからです。

住人さんとは施設を通じて出逢います。住人さんから直接話を聞いたり、カルテなどから過去の住人さんを知ります。住人さんの施設での24時間に寄り添います。外出はそれ以外の新たな一面を見せてくれるのが楽しいのです。

とはいえ、様々な身体機能の方を外出にお連れするのは容易な事ではありません。生活の場を離れた住人さんを想定し、あらゆるアクシデントにも対応できるよう、気の抜ける瞬間はありません。その方の持病や性格や行動パターンを把握していなければ、取り返しのつかない事態を招きかねません。準備もタイムスケジュールを組むのも気を張って取り組みます。そんな苦勞をしても、現地や帰宅したときの住人さんの反応をみると「頑張った良かった、また行こう」と思えるほどの心の収穫があります。

先日は10数名の住人さんを連れて、2日間に分けてバラ園に行ってきました。当日の天気は予想以上に暑く、陽ざしもカンカン照り。急遽、避暑対策準備もしました。天候も住人さんにとっては命取りになりかねません。外出する住人さんの為に、施設に残る職員も全面的に協力をしてくれました。食事介助や排泄対応、入浴調整など皆の協力が無くては実現できませんでした。いつもと違った対応をする事は、施設皆の1日のスケジュールの組み換えを伴う事もあり、大変なこともあります。ですが、職員皆の想いは一つです。

『住人さんの為なら…』

その協力体制は職員間のチーム力強化にもなります。あらゆる職種との連携も必要となり、施設全体が一丸となつての取組みとなりました。

参加住人さんの中には、ご飯が口からは摂取できない、言葉を発することが出来ない、身体を自分で動かすことができない、そんな方々もいます。でも出来る事はまだまだあり、目をキョロキョロと動かせたり、手を出したり、微笑んだり頷いたり、日頃見る事の出来ないリアクションをして下さいました。太陽の光を浴び、外気に触れ、移動での振動を身体に受け、周囲から子どもの声が聞こえたり、話しかけられたり。2時間の外出は、住人さんと私達にとっては冒険でもありました。

帰宅した住人さんの中にはホッと安堵の表情を見せられる方もいます。

『やっと帰ってきた』

その言葉も嬉しいのです。なぜなら、ここが帰る場所と認識されているからです。「はじめまして」と出逢い、今では「ただいま」と言って頂けること。住人さんが安心して生活できる場をと日々努力している事が報われる瞬間でもあります。

これからも住人さんにとって安らげる空間を提供できるよう、日々努めます。そして時より、日々の生活を色付けできるような楽しみも意識しながら、一人ひとりの方と向き合い、その方々の生活の質を模索していきたいと思っています。

介護職員 甲斐 かおる

普通人

「ワ・レ・ワ・レ・ハ・フ・ツ・ウ・ジ・ン・ダ・・・」

何かSF映画の一節の様に感じられましたか？

高齢化社会と言われ、高齢者福祉の現場がクローズアップされる機会が増えています。一般の方にとっても、デイサービスという施設が少しずつ身近な存在になっているのではないのでしょうか。そうした数多くあるデイサービスの中でも、特に私たち平田豊生苑が気を付けていることをご紹介しますと思います。

人の生活で普通とは何かを考えてみます。例えば私自身を例に挙げます。朝起きた時に家族に「おはよう」と挨拶をする。顔を洗って歯を磨いたら着替えて外出の支度をする。ご飯は三食しっかり摂る。「いただきます」と感謝を伝え、箸を持って茶碗や皿から食べ物を口に運び、米粒一つも残すことなく頂いたら「ご馳走様でした」と改めて感謝を伝える。寝るときは風呂に入って、歯を磨いてトイレに行って「おやすみ」とあいさつをして布団で寝る。これらは私にとって普通の事です。もちろんすべてがこの通りに毎日が送れるわけではありませんが、皆さまはいかがでしょう。

私たちデイサービスセンター平田豊生苑での日常は来苑頂いたら、まず私たち職員が朝の気持ちの良い挨拶をするところから始まります。お茶を飲んでゆっくりしてもらい、そこから血圧を測り入浴していただく。お食事では温かいものは温かいうちに提供する。衣類が汚れている時はさりげなく周りの方に気づかれないように取り換えさせてもらう等、当たり前のことだと言う事を徹底しています。これを日々繰り返し、どのようにしたら更に楽しんで頂けて快適なのかを考えています。せっかく来ていただいたのだからと、日々のレクリエーションに加えて四季折々の行事を提供させて頂いていますが、むしろここでの日常の生活の、当たり前で普通の事にこそ重きを置く必要があると考えています。

これらを実施するうえで力を入れていることは、職員がご利用者に何をするのが最善なのか、何が幸福なのかを自問自答する事です。ご利用者にお尋ねすると、「よくもなければ悪くもない、特別な事の無いことが幸せなのだ。」つまり日常が幸福なのだを教えて頂きました。

普通こそが幸せなのはわかっているけれども長くデイサービスで努めているうちに「老人福祉施設ではこう」という考え方が次第に大きくなってきて「普通」が普通でなくなってしまうこともありがちです。何年たっても初心を忘れてはいけません。私たち職員は、普通人で有り続ける事でご利用者の生活の一部を支えていけると、日々意識し努力しています。

生活相談員 高島 利弘

「介護」が始まる時

20年近く介護に関わる仕事を続けてきましたが、私自身50歳前後あたりを迎えた頃から、「介護」が自分の身近に起こることと実感することが多くなってきました。遠方に住む両親がここ数年少しずつ老いていくのを目の当たりにし、いざ何かあったらどうしていこうかと、具体的に考えることが多くなった事も影響しているかもしれません。

高齢の親が病気や骨折で入院し、退院しても自宅での生活が難しくなるケースや、二人暮らしの方がお互い助け合いながら暮らす中で介護や支援が必要になるケースなど、「介護」が必要な状態がある日急に始まることもあります。「介護」はどこか遠くの世界のこと、「そういったこともあるね」と思っていたことが、自分の事として向き合わなければならない日があると、どうしたら良いか分からなくなるし迷うことも多いと思います。

ケアマネの仕事は、ご自宅で暮らし続けたい方の相談に乗りながら、ご本人の気持ちやご家族の気持ちに寄り沿い、一緒に考えていく事です。今の生活を続けていくためには何が必要でどうしていくのが良いのか、必要に応じて介護サービスの提案をしながら折り合いの付く状態を探します。

ご家庭により事情は様々で答えもすぐに出るものではありません。暮らしやすい環境を整えて、その時々でサービス等を見直しながら日々の暮らしを支えていきます。

これは困ったなと「介護」が必要になった時に気軽に相談できる場所でありたいと思います。

介護支援専門員 加藤 久美子



乳児棟 新園舎完成！

和進館保育園では平成30年度、乳児棟の建て替え工事を行いました。約1年がかりの工事で園庭が使えなくなり行事の変更もありました。保護者や近隣の方々にご協力いただき、無事新園舎が出来上がりました。工事期間中子どもたちは、クレーン車、ダンプカー、ブルドーザー等の働く車をたくさん間近で見ることができ、貴重な体験をすることができました。

より良い保育を行っていきけるよう、どのような園舎にするか、職員でたくさん話し合いを重ねて、平成31年3月やっと完成し保育を開始しております。その中で今回新しく変わったところをいくつかご紹介したいと思います。

① 保育室の扉

以前は大人の目線のみ外・中が見れた扉でしたが、今回は子どもたちの目線からものぞいて見れるようなものにしました。

「〇〇ちゃんママだ」「△△先生きたよ。ばあ～」中にはのぞきたくて扉を開めて、おうちの人についてらっしゃーいとする子もいます。お友だちの顔を見つけて「あーい、あそぼ」と喜んだりおもしろい顔をしてみせたり、かわいらしい姿も見られます。



② 0・1・2歳児のロッカー

前は0・1歳は扉のついたものを使っていて、ボタンと開け閉めすることが楽しくなっていた子がいっても、高くて子どもが「自分で」は届かず大人が手助けしていました。

子どもたちの自分でやってみたい意欲を大事にしていきたいと思い変えました。

1・2歳児はロッカーマークを少しずつ覚えて、「みてみて」じぶんで「すごいでしょ」と得意げに行う子もいます。保育者に「上手にできたね」「ありがとうね」など声を掛けられて喜んでいます。

初めの頃は戸がない分、好きなキャラクターを見つけて次々出したりということがあったのですが、慣れてそれより玩具で遊びたいとなると、出すことも減っていきました。



③ 壁の色・材質

保育室、水道、トイレ、廊下など一つ一つどんな色・材質にするかも考えていきました。

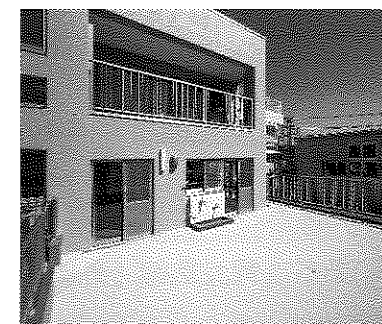
「明るく」でも少し落ち着いた雰囲気になるように、見本を見せてもらったりして決めました。

トイレは、トイレトレーニングも行っていく年齢の子どもたちが使うので、壁紙を好きな動物柄にしました。「にゃーにゃ ねこさんに会いに行こう」「なんの動物がいるかな」と喜んで行き、帰る時は「バイバーイ」と壁の絵に向かって手を振る子もいます。

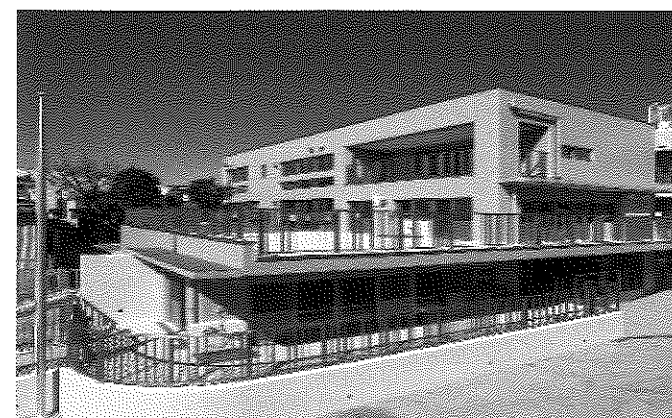


④ ベランダ

各階のベランダに水遊びも楽しめるよう、お湯も出る水道をつけてもらいました。以前は部屋の中の水道からホースでベランダまでつなげていたので、とっても便利です。1階はシャワーもついているので、園庭で水たまりを見つけてどろんこあそびになってもすぐシャワーすることができ、そのまま水あそびに発展してしまう程、子どもたちは気持ちよく楽しんでいます。ホースと違ってシャワーはお家のお風呂と一緒にということもあるのか、怖がる子もなく、順にかけてもらうことを待っています。



それぞれ色々な思いを込めて、たくさんの方のご協力があって出来上がった新園舎。始まってみて気づいたところもあり、手直ししながらより快適に生活できるようにしています。これからたくさんの子どもたちが、泣いたり笑ったりして過ごしながら思い出を作っていきたいと思います。



保育士 高村 慧
川合 幸美

ぞうずし開店です♪ ～つくってあそぼう～

平田保育園では昨年度より、幼児組を中心に五感で楽しむ造形を基本理念として、いろいろな道具（はさみ、のり、クレパスなど）を使って一人ひとりが自由に表現することを楽しむ「造形」の活動に取り組んでいます。

年中クラスぞう組では、造形の活動で手作りお寿司を作りました。「まぐろとサーモンがいいな～」「たまごだいすき！」と一人ひとりが好きなお寿司を思い浮かべながらたくさん作りました。



ご飯は白い花紙、いくらはプチプチに色を塗りました。お茶も忘れずに作りました！まるで本物のようです！

保育士が「お寿司屋さん開いてみる？」と子どもたちに提案し、お寿司屋さんごっこあそびをすることになりました。「お客さんだれ呼ぼうか？」と考えていると、真っ先に「おじいちゃんとおばあちゃん!!」とのアイデアが出ました。平田保育園は特別養護老人ホームの平田豊生苑と合築施設になっているため、身近におじいちゃん・おばあちゃんと触れ合うことができます。子どもたちからそのように交流を持ちたいと感じてくれることを嬉しく思いました。

- *おじいちゃん・おばあちゃんにチケットを作りたい！
- *どのお部屋が分かりやすくしたい！
- *お部屋をきれいに片付ける！
- *おじいちゃん・おばあちゃんとたくさん話したい！

お寿司屋さんに向けての
子どもたちの思い

友だち同士で思いを話し合っているうちにどんどん盛り上がり、おじいちゃん・おばあちゃんのお客さんが来てくれることにワクワクとドキドキがとまらない子どもたちです☆

さっそく手作り招待状を作り、おじいちゃん・おばあちゃんの元へ渡しに行くと、にっこり笑顔で温かく迎えてくださいました。お部屋には分かりやすいように「ぞうずし」とのれんを作り、本棚やおもちゃ棚もきれいに整頓しましたよ☆



そして、いよいよお寿司屋さんの開店です♪

たくさんのおじいちゃん・おばあちゃんが来てくれたことに大喜びの子どもたちでした。嬉しさのあまり、どんどんお寿司とお茶を運びます・・・♡



「ねえねえ、おいしい?」



「これは本物のお寿司かな...?」
「ほんとには食べちゃダメ〜〜!」

最後は子どもたちからも、おじいちゃん・おばあちゃんからも「ありがとう」や「楽しかったよ」の言葉が自然と出てきて、みんなが笑顔になれる素敵な時間となりました。

今回のように造形の活動を広げ、世代をこえて遊ぶ楽しさを味わえたことは子どもたちにとって貴重な経験となり、保育者としても新しい発見がたくさんありました。今後も季節に合わせたものづくりをおじいちゃん・おばあちゃんと一緒に楽しんだり、教えていただいたりしながら、いろいろな交流を図っていきたいです。また、今回のあそびの中で感じたおじいちゃん・おばあちゃんと子どもたちの間に生まれる温かな思いも、大切にしていきたいと思います。

保育士 小島 昂大
上野 史帆里

児童養護施設ってなに？

私は児童養護施設和進館児童ホーム（以下、児童ホーム）に勤めて今年で4年目になります。出張で大学の就職説明会に出向いたり、プライベートで友人と話したりする時に「児童養護施設で働いている」と言うと、「どういう施設？」とよく聞かれます。毎年、社会福祉学部や保育学部の学生さんが実習に来るのですが、「実習前まで児童養護施設がどんなところなのか分からなくて不安でした」と、福祉や保育を学ばれている学生さんでさえ児童養護施設について知らない事も少なくありません。私が働き始めてからよく思うのは、“児童養護施設を認知している人が少ない”という事です。ですので、この広報を手にとっていただけたことで、そもそも児童養護施設はどのような施設なのか、また児童ホームとはどのような施設なのかを少しでも多く知っていただければと思います。

“児童養護施設”には、様々な事情があって保護者と生活する事が困難になってしまった子ども達が生活しています。子ども達が施設を巣立っていく日まで職員が子ども達の衣食住を保障し、子ども達が安心して生活出来るように日々支援しています。

児童ホームは現在の建物に建て替わり10年が経ち、11年目を迎えています。大人数で過ごしていた大舎制から、少人数の空間で過ごすユニット制に代わってからも、同じ年月が経ちました。全体的な子どもの定員は45名で、幼児ユニット（幼児～小学校低学年までの男女）、学童女子ユニット（小学生～高校生までの女子）、学童男子ユニット（小学生～高校生までの男子）に分かれて生活しています。各ユニットに、キッチン、トイレ、浴室があります。また、学童ユニットには全員1人部屋があり、それぞれ好きなように部屋をレイアウトしています。また、施設によって子どもの支援方法は異なりますが、児童ホームは“担当制”という体制で子ども達を支援しています。1人の職員が1～3人までの子どもを担当しており、特定の大人との関係性を築くことを重視しています。関係性を築くというのも簡単ではなく、その過程で様々な事があります。

私達が担当児との関係性を築く過程の体験談を2つ紹介したいと思います。

①私が担当している2歳の女の子は、今年度入所してからしばらく新しい環境に慣れることが出来ず、玄関に座り込んで大泣きする日々でした。そんな姿に正直戸惑いましたが、日々過ごしていく中で子どもも「この人が見てくれる人だ」と分かり、今では笑顔で活発に過ごしています。私の足を平均台に見立てて渡り歩いたり、イスに座っているとよじ登って来たり、飛行機をしたりスキンシップ遊びをするのがブームで、アトラクションだと思っている様です(笑)。こうした日々の関わりを重ね



て、子どもが安心して生活していけるように今後も支援していきたいと思っています。

②私は2年目の時に、当時中学3年生の女の子を担当する事になりました。年頃の女の子という事もありどう関わって良いのか分からず、はじめは挨拶すら返してもらえない状況が続いていました。しかし、毎日何気ない会話をしていたり時にはぶつかってみたりしているうちに、その子との溝が少しずつ埋まっていくのを感じました。私の誕生日には同じ担当の子と一緒にサプライズでお祝いしてくれて、その日を境にその子との関係性が更に深まっていくのを感じました。後日、その子が他職員に、私の誕生日サプライズをしてくれた日から関係が良くなった、と言っていたと聞いて“私と同じタイミングで同じ事を感じてくれていたんだな”と、とても嬉しくなりました。

最後に、今年度から児童ホームの職員になった田添さんと内藤さんに、色々質問してみました！

Q. なぜ児童養護施設に就職しましたか？

田添さん「大学で講義を受けて、児童養護施設に興味を持ち、施設実習やアルバイトをする中で、明るく元気に過ごしている子どもの姿が印象に残り、子どもたちの支援に関わりたと思ったからです。」

内藤さん「高校生の時に児童養護施設でボランティアをしたことをきっかけに興味を持ち、子どもの生活を近くで見守ることができる仕事に就きたいと思いました。」

Q. 働いていて楽しかった事は？

田添さん「子どもが今まで出来なかった事が1つずつ出来るようになっていき、その成長が見られたこと。担当の子がトイレで排便できた時には、一緒に喜びました。」

内藤さん「子どもから『がんばってね』と書かれた手紙を貰った時はとても嬉しかったです。これからは頑張ろうと心から思いました。」

以上、新人職員さんの生の声でした！。正直「楽しい」だけで続けられる仕事ではありませんが、誰よりも近くで子どもの成長を感じる事が出来たり、担当児と関係性を築けた時にやりがいを感じ、この仕事で良かったなと思います。この記事を読んでくれた方が少しでも児童養護施設に興味を持ってくれると嬉しいです。

ケアワーカー 沼崎 香穂
中西 陽和

レクリエーションと介護

老人ホームやデイサービスでは、高齢者が集まって楽しみながら交流を深める「レクリエーション」が実施されております。

レクリエーションには指先を使う折り紙や、道具がなくてもできるクイズ、体を動かすようなものなど様々なものがあります。どれも単調になりがちな生活に変化を与える目的だけではなく、老人ホームでの暮らしにおいて重要な役割を果たしています。

私は、数カ所の施設で介護業務の経験をしてきました。どの施設でも、カラオケをしたり地域を題材にしたクイズをやったりとさまざまなレクリエーションを考えて行っていました。地域のクイズの時はご自分の出身地の問題が出た時の反応がよいので、出身地ごとに調べて出題していました。

守山豊生苑では時間や人手不足により、現在職員によるレクリエーションの実施が、残念ながらあまり出来ていない状況です。ですが月に数回ボランティアさんに来ていただきドッグセラピー、日本舞踊、フラダンスなどが行われております。

私はこちらにきて初めてドッグセラピーを拝見しました。犬を抱っこすると、いつもあまり表情の変化がない住人さんも自然と笑顔になり、口数の少ない住人さんも顔を綻ばせ、職員や周りの方と会話を楽しまれてみえます。

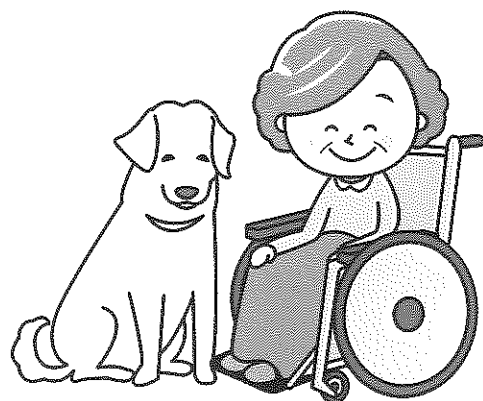
いつもなら車いすに座っている時うとうとと目を閉じられしまう住人さんも、日本舞踊やフラダンスのレクリエーションがある日には、目を輝かせながら手拍子をされたり一緒に踊ったりと、とても生き生きとした表情をしておられます。

そんな姿を見るとボランティアさんの力を借りてですが、住人さんの生活の活力になっているのではないかと考えています。

レクリエーションは色々な人々をつなげる重要な機会。レクリエーションには住人さんやそのご家族から見たら「幼稚」と感じるものもあるかもしれませんが、脳や身体機能を活性化させる効果があるのです。

私は今後、それらの経験を活かしながら、住人さんたちがよりよく施設で生活していただけるよう援助していきたいと思ひます。

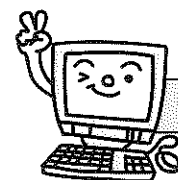
介護職員 清水 裕貴



和進館保育園乳児棟は前年度改築工事を進め、3月には完成し4月から新園舎で保育を開始しております。工事期間中には近隣の方々にご理解をいただき、改めて感謝と御礼を申し上げます。

5月・6月には、理事会・評議員会を開催し「事業報告・決算」が承認されました。さらに「苦情解決委員会」も開催し法人内事業所における「苦情」「傷害」等について報告・検討をすることができました。本年5月から元号が「令和」に変わり、新しい時代の幕開けと同時に気持ちを引き締め、少子高齢化に対する専門職の担い手としての意識を職員ひとり一人に定着していきたいと思ひます。

事務員 杉山 珠美



ホームページ：<http://www.washin.or.jp/>

●寄付ご報告●

以下の方々よりご寄付を頂きました。

改めて心よりお礼申し上げる共にご報告いたします。

株式会社名古屋食糧	日本ゼネラルフード株式会社
合資会社三河屋本店	名城大学理工学部フォークデュオサークル
タキヒヨー株式会社	社会福祉法人中部善意銀行
有限会社ダスカジャパンクアウテモック	ダリーズコーヒージャパン株式会社
近藤産興株式会社	有限会社ひまわり薬局
株式会社安納スイーツファーム農業法人	平成観光 KEIZ 尾張旭店
愛知県信用農業協同組合連合会	名古屋トヨペット株式会社本地ヶ原店
ハーゲンダッツジャパン株式会社	愛知チェーンストア営業
一般社団法人親切会中部支部	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
特定非営利活動法人かくれんぼ	株式会社タケコシ
中部トーハン会	株式会社フジエイ 斎藤 栄成
株式会社クリラボ	林 恭 弘
羽場 弘 樹	鈴木 俊
川崎 秀 和	中川 ゆ み
河井 道 子	榊 原 節
久保 英 一	菱 田 貢
吉 田 均	佐 俣 武 治
田 中 尚 己	稲 川 有 紀

(順不同) 以上

編集後記

広報「和進」を通じて、様々な方々に、各施設の日々の様子を知っていただき、興味を持って頂ければ嬉しく思ひます。次号もお楽しみに。

平田豊生苑 祖父江 晴香